

ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.96
February 2018

応用地域学会ニュースレター

CONTENTS

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 2018・2019年度 運営委員選挙案内 | 7. 会員の入退会について |
| 2. 第31回研究発表大会報告 | 8. 応用地域学会 会則の改正 |
| 3. 第32回研究発表大会のご案内 | 9. 2018年度会費納入のお願い |
| 4. 第8回アジア地域科学セミナーのご案内 | 10. 総会報告 |
| 5. 2017年度坂下賞 | 11. 事務局だより |
| 6. 2017年度応用地域学会論文賞 | |

1. 2018・2019年度 運営委員選挙案内

選挙管理委員 **織田澤 利守** (神戸大学)
森田 忠士 (近畿大学)

ARSC会則第8条および内規Iにしたがって、第15期(2018年4月1日から2020年3月31日まで)運営委員の選挙を行います。

投票は、別途郵送の選挙葉書により、3名連記の投票をお願いいたします。(別添の運営委員選挙の案内に従って投票をお願いします。)

投票の締め切りは、2018年3月15日(木)(当日消印有効)です。

この運営委員選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規II第3条に従い、会長指名により、神戸大学の織田澤利守と近畿大学の森田忠士が務めます。

2. 第31回研究発表大会報告

大会実行委員長 **田淵 隆俊** (東京大学)

1. 大会概要

第31回応用地域学会東京大会は、2017年11月25日(土)、26日(日)の2日間にわたり、東京大学本郷

キャンパスにおいて開催されました。通常の研究発表セッションにおいて各会員の研究成果が報告されるとともに、坂下賞受賞講演、学会総会などが行われました。大会の実施・運営は、学会会長である安藤朝夫先生（東北大学）および学会事務局の協力を得て、東京大学の経済学研究科と空間情報科学研究センターに所属する教員5名をメンバーとした大会実行委員が担当しました。また、研究報告のプログラム編成については、曾道智先生（東北大学）を委員長とする6名のプログラム委員が担当しました。

大会には延べ180名の参加がありました。以下では、今回の大会における研究発表、坂下賞受賞講演、学会総会のそれぞれについて、概要を紹介します。

2. 研究発表大会

研究発表セッションでは、2日間で計61編の研究論文が報告されました。これらのセッションは、各会員の研究論文・研究成果の報告からなっており、研究テーマごとに最大5つのセッション会場が設けられました。そこでは、応用地域学会が対象とする研究分野で中心的なテーマとなっている、「集積の経済」、「交通」、「地域経済の現状」、「経済効率性」、「地方活性化」、「空間競争」、「貿易」、「立地・地価」、などのセッションが設けられました。「集積の経済」については4つのセッション、「交通」と「地域経済の現状」については3つのセッションがありました。なお、「Earlybird」では10人の学生会員による報告が行われました。

都市・地域にかかわる会員の最新の研究成果の報告に対して、討論者やフロアから多くのコメント・アドバイスが寄せられ、また若手研究者を育成・鼓舞するコメントもあり、大変実りの多い研究発表大会になったと考えております。

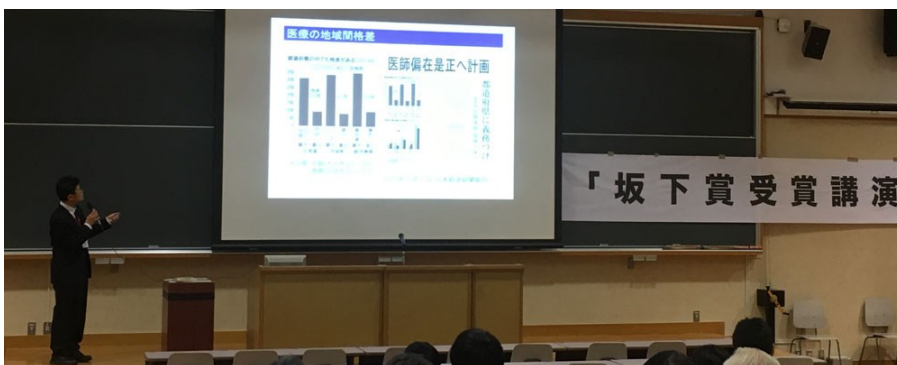
3. 坂下賞受賞講演

今大会では、2016年度の坂下賞受賞者である相浦洋志氏（南山大学）により、「地域医療の空間経済学的考察」というテーマで講演していただきました。相浦氏の研究テーマのひとつである医療分野における最新の研究成果として、診療報酬（医療価格）の変動が地域拠点病院の医療品質および医師の偏在に与える影響について説明されました。

まず、地域拠点病院の医療品質に与える影響について、医療機関における現状の労働分配率のもとでは、大都市の病院よりも小都市の病院の方が診療報酬の増加による医療品質の向上が大きいことを空間競争モデルを用いて説明されました。

次に、医師の偏在に与える影響について、診療報酬の増加により人口の多い地域に医師が集まることを

Core-Peripheryモデルに基づく手法から説明できることを示した上で、実際に日本の乳幼児医療費助成制度の拡大により小児科クリニックの数が増加し、その増加が人口密度の高い地域ほど大きくなることを示されました。



2016年坂下賞授賞講演の様子

4. 学会総会

坂下賞受賞講演終了後に、2017年度の学会総会が開催されました。総会では、2017年度の活動報告および学会活動方針、会員異動の現状、2016年度決算および2018年度予算の報告が行われ、2016年度決算が承認されました。2018年度以降の予算については、Review of Urban & Regional Development Studiesが学会財政を破綻させる問題が指摘され、撤退を見据えて予算の見直しをすることになりました。

続けて、2017年度の坂下賞が、直井道生氏（慶應義塾大学）に授与されること安藤朝夫会長（東北大学）より報告され、授賞式が執り行われました。受賞理由は、家計行動を対象とした住宅市場を中心に、幅広くかつ精緻な実証分析を行ってきており、そのなかから重要な政策的含意を導出していることと、国際的にも活躍していて今後さらなる発展が期待されることによるものです。

さらに、2017年度の応用地域学会論文賞が栗野盛光氏（筑波大学）と高原勇氏（筑波大学）による研究論文「IoT車両情報の速度に関するモニタリング選択問題」（応用地域学研究、第20号（2016年）掲載論文）に対して贈られることが、選考委員長の高橋孝明先生（東京大学）により報告され、授賞式が執り行われました。本論文は、自動車の運転者が政府による走行速度のモニタリングを受けるかどうかを選択するとき、モニタリングを受けることを選択するには、金銭的授受の制度をどう設計すべきか分析しています。モデルは独創的で精緻であり、論文賞にふさわしいと判断されました。

最後に、第32回研究発表大会が2018年12月1日（土）および2日（日）の日程で、南山大学にて開催されることが報告されました。また、第8回アジア地域科学セミナーが2018年9月14日を含む週に、韓国済州島で開催予定であることが報告されました。

※ 第8回アジア地域科学セミナーは総会時に案内しておりました予定から、日程が変更になり、2018年 9月7日(金)～9日(日)開催予定です。

3. 第32回研究発表大会のご案内

ARSC事務局

2018年度のARSC研究発表大会は、南山大学が開催校となり、大会実行委員長 奥田隆明教授を中心に、下記要領にて実施いたします。奮ってのご参加をお願い申し上げます。

大会概要

日 程： 2018年12月1日(土)～ 2日(日) * 総会、懇親会は12月1日を予定

会 場： 南山大学名古屋キャンパス

発表申込み〆切： 2018年9月初旬(予定)

論文提出〆切 : 2018年10月末(予定)

発表申込先、および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS次号（2018年6月発行予定）、メーリングリスト、ホームページ（予定）で、ご案内していきます。

4. 第8回アジア地域科学セミナーのご案内

ARSC事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会（ARSC）、中国地域学会（RSAC）、台湾地域学会（CRSA）、韓国地域学会（KRSA）が共催して開催しています。

第8回アジア地域科学セミナーは、下記の日程で、韓国済州島で開催予定です。韓国地域学会（KRSA）から詳しい情報が届き次第、ARSCホームページ等でお知らせいたします。

第8回アジア地域科学セミナー概要

日 程： 2018年 9月7日(金)～9日(日)

会 場： Jeju National University（韓国済州島）

※ 当初ご案内しておりました予定から、日程が変更になっていますので、ご注意ください。

5. 2017年度坂下賞（Sakashita Prize）

2017年度坂下賞選考委員会 委員長 多々納 裕一（京都大学）

2017年度の坂下賞は、慶應義塾大学経済学部准教授 直井道生氏に決定しました。坂下賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、直井氏には、安藤朝夫会長から、表彰状（盾）と金一封が授与されました。

2017年度 坂下賞 受賞者

直井 道生（慶應義塾大学経済学部 准教授）



2017年坂下賞授賞式の様子

授賞理由

直井道生氏は、特に住宅市場との関連で、幅広い家計行動を対象とした実証分析を行ってきており、その成果は10編の英文学術誌論文をはじめ、邦文査読付き論文7編などの論文や4冊の書籍（英文1、和文3）などに取りまとめられている。同氏の貢献は都市・住宅市場、家計行動、自然災害リスクの分析など、幅広い研究対象に対して、多様なマイクロデータと、適切なマイクロ計量経済モデルを組み合わせることで、精緻な実証分析を行ない、そこから重要な政策的含意を導出している点にある。たとえば、Naoi, Seko, and Sumita (2009) では、家計の自然災害に対するリスク認知に着目し、周辺地域で大規模な地震の発生後には、地震リスクが住宅価格に帰着することを示した。また、Moriizumi and Naoi (2011) では、家計の異質性を潜在クラスによって特徴づけたハザードモデルを提示し、失業リスクが

家計の住宅取得タイミングに及ぼす影響を検証している。さらに、Iwata and Naoi (2017) では、家計の出生行動に着目し、住宅資産の変動が非対称な影響をもたらすことを示した。同氏は国際的にも活躍しており、今後のさらなる発展が期待される。よって2017年度坂下賞を直井道生氏に授与することとする。

2017年度 坂下賞選考委員会 委員長 多々納 裕一（京都大学）
委員 城所 幸弘（政策研究大学院大学），村田 安寧（日本大学）
安藤 朝夫（ARSC会長），大澤 義明（ARSC副会長）

6. 2017 年度応用地域学会論文賞 (Best Paper Award of ARSC)

2017年度応用地域学会論文賞選考委員会 委員長 高橋 孝明（東京大学）

選考委員会では、応用地域学研究ならびにRURDSに掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、2017年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとなりました。応用地域学会論文賞の表彰は、11月25日応用地域学会総会の中で行われ、著者の栗野 盛光氏と高原勇氏に、安藤朝夫会長から、表彰状（盾）が授与されました。

2017年度 応用地域学会論文賞 受賞論文

論文名：
IoT車両情報の速度に関するモニタリング選択問題

著者名：
栗野 盛光（筑波大学システム情報系社会工学域）
高原 勇（筑波大学システム情報系社会工学域）



2017年論文賞授賞式の様子

授賞理由

本論文は、自動車の運転者が政府による走行速度のモニタリングを受けるか受けないかを自分で選択するとき、モニタリングを受けることを自発的に選択するようには、金銭的授受の制度をどのように設計すればよいかを、厳密なモデルを構築して分析したものである。走行速度のモニタリングは、IoT車両情報が利用できるようになった比較的最近の技術で、それをメカニズムデザインの枠組みで分析するという試みはこれまでになされておらず、非常に独創的な研究である。また、自動車の走行速度の誘導という政策課題に対するインプリケーションも大きい。さらに、モデルの設定はシンプルで頑健で汎用性も高く、分析は正確で必要十分である。

以上のように、本論文は、今後の応用地域学の新しい方向を示す模範的な論文であり、応用地域学会論文賞にふさわしいと判断する。

2017年度 坂下賞選考委員会 委員長 高橋 孝明（東京大学）
委員 河端 瑞貴（慶応義塾大学），河野 達仁（東北大学）
安藤 朝夫（ARSC 会長），大澤 義明（ARSC副会長）

7. 会員の入退会について

ARSC事務局

2017年度総会（2017年11月25日）において、2016年度総会以降に入退会を申請された以下の方々の入退会が承認されました（順不同・敬称略）。

入 会:

（一般6名）田島 夏与（立教大学），林 正義（東京大学），藤原 直哉（東京大学），青木 高明（香川大学），北垣 亮馬（東京大学），田口 麻人（福島県立図書館）

（学生14名）村山 透（筑波大学），高野 佳佑（筑波大学），ホサイン シャリフ（政策研究大学院大学），塚本 高浩（名古屋大学），田所 篤（大阪大学），恩田 幹久（東北大学），難波 洸子（筑波大学），長 晃（筑波大学），東 雄大（神戸大学），若林 優妃（筑波大学），馬場 弘樹（東京大学），河又 裕士（筑波大学），及川 雅斗（東京大学），佐藤 宇樹（東北大学）

同時に以下の方々の退会が承認されました（順不同・敬称略）。

退 会:

（一般23名）大河原 透（（財）電力中央研究所），篠田 秀彦（北九州市 産業経済局），今永 典秀（岐阜大学），伊藤 敏安（広島大学），滝 雅人（トヨタ自動車株式会社），有山 道夫（鹿児島国際大学），黒田 彰三（専修大学），竹内 佑一（（財）計量計画研究所），上野 皓司（和歌山大学），植田 和弘（京都大学），大平 号声（東京国際大学），高橋 秀悦（東北学院大学），根本 敏則（一橋大学），岡寺 智大（独立行政法人国立環境研究所），福井 康子（（株）都市経済研究所），古谷 知之（慶應義塾大学），福原 崇之（北海道教育大学），宮崎 智視（神戸大学），奥山 恭英（北九州市立大学），生井澤 進（東京国際大学），高橋 達（一般財団法人空港環境整備協会 ※2017/12/22復会），林 達朗（京都市産業観光局），福本 潤也（東北大学）

（学生10名）奥村 保規（慶應義塾大学），李 媛（東北大学），鄭 丹（名古屋大学），星野 匡郎（東京工業大学），津田 敏明（広島大学），小椋 隆司（株式会社 十六銀行），肖 禹（名古屋大学），爲季 和樹（東京工業大学），矢田 晃一（筑波大学），稲田 啓佑（中央大学）

この結果、2017年11月25日現在の会員数は、下表のとおりとなりました。

（一般会員430人、学生会員66人、海外会員6人、賛助会員5法人(7口)）

		2016年11月	入会	退会	転格	2017年11月
個人会員	一般会員	438	6	-22	12	423
	学生会員	58	14	-10	-12	60
	海外会員	5	0	0	0	5
	合計	501	19	-32	0	488
賛助会員		5(7口)	0	0	0	5(7口)

8. 応用地域学会 会則の改正

ARSC事務局

運営委員・副会長選挙の候補者の選出にあたり、会則第4条1項の文言および、会則第4条1項により、賛助会員の選挙権はないため、選挙内規I. 運営委員の定員数および選挙方法 第2条を、以下のよう
に改定することが2017年11月25日の総会に諮られ、議決されました。

改正された応用地域学会会則・選挙内規は、ARSCホームページに掲載されています。

(会則の改正)

(変更前)

会則 第4条(権利・義務)

1. 会員は本会の行う事業に参加し、本会の一般刊行物1部の配布を受けることができる。

また個人会員は、本会の役員選挙および会員投票による選挙権を行使することができる。

(変更後)

会則 第4条(権利・義務)

1. 会員は本会の行う事業に参加し、本会の一般刊行物1部の配布を受けることができる。

また個人会員は、本会の役員選挙における選挙権および会員投票による選挙権総会の議案に対する議決権を行使することができる。

(選挙内規の改正)

(変更前)

I. 運営委員の定員数および選挙方法

第2条

運営委員の選挙は全会員による無記名3名連記の投票によりこれを行う。投票は地区割りに関係なく行われるが、運営委員の決定は地区別得票順に行われる。選挙結果の決定につき疑義のあるときは、選挙管理委員を加えた運営委員会がこれを決する。

(変更後)

I. 運営委員の定員数および選挙方法

第2条

運営委員の選挙は全個人会員による無記名3名連記の投票によりこれを行う。投票は地区割りに関係なく行われるが、運営委員の決定は地区別得票順に行われる。選挙結果の決定につき疑義のあるときは、選挙管理委員を加えた運営委員会がこれを決する。

9. 2018年度会費納入のお願い

ARSC事務局

会員データベース(2018年2月1日現在)に基づいて発行された請求書をお送りします。

ご請求額を2018年4月30日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。

送られた請求額について疑義のある場合には、学会事務局まで、メール(clerk@arsc.org)にてお問い合わせ

せ下さい。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳（対象年度等）を必ずご記入下さい。（振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。）

皆様それぞれの会費納入状況は、ARSCホームページ (<http://www.arsc.org/>) の会員ページ(会員ログイン)で、確認できます。（会員ページにログインできない方は、上記学会事務局にお問い合わせください。）

(1) ARSC会費

2018年度会費は、一般会費 10,000円、学生会員 5,000円、賛助会員 1口 50,000円です。

また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)は、ARSC年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60です(RURDSは、全員に配布)。なお、海外会員でも国内会員と同等とする場合は、10,000円となります。

* 海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出されたUSドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

(2) RSAI(国際地域学会)会費

2018年のRSAI会費は、一般会員 1,300円、学生会員 1,300円 です。

<RSAI会費とサービス>

RSAIの会員に対するサービスは、以下のようになっております。応用地域学会を通じて、RSAI会員である方は、ARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

なお、2015年から、RSAIの会員サービスが変更となり、ジャーナル等のプリントの郵送サービスが廃止され、オンラインサービスのみとなりました。

(2015年から、従来のRSAIのプリント郵送サービスを受ける会員区分Aは無くなり、オンラインサービスを受ける会員区分Bのみとなり、従来の会員区分Aの方は、会員区分Bに変更しております。)

<RSAIのサービス内容 >

- ・Papers in Regional Science(PiRS)、ニュースレター等のオンラインサービス
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・RSAIの会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版物の詳細情報の提供

<RSAI会員の継続・入退会について >

ARSCを通じてのRSAIへの入退会は、年1回、11月までに、翌年のメンバーリストを提出することでなされますので、毎年10月頃に、入退会・継続、登録情報変更のご案内をいたします。

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、学生から一般への変更は、国内会員の移動転格に合わせます。

なお、日本地域学会の会員は自動的にRSAIに登録されていますので、本会との二重登録にご注意ください。

2017年度の総会は、大会中の11月25日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

(1) 会員異動報告（前掲）

(2-1) 2016年度決算（末尾の表を参照）

監査委員小川光先生（東京大学）、相浦洋志先生（南山大学）の監査を受けた2016年度決算書が報告され、原案どおり2016年度決算案が承認された。

(2-2) 2018年度等予算について

2018年度以降の予算見込みが提示された。

(3) 今後の経理方針について

安藤会長より、学会運営に関する今後の経理方針が提案され、RURDSに関する出版社との交渉を開始すること等が承認された。

(4) 臨時会費の徴収について

議題（3）において承認された経理方針により、必要に応じて、一時的な会費の値上げ（臨時会費の徴収）等の措置に関連して提案され、承認された。以下は補足。

- 学生会員については、値上げはしない。
- 間に合えば、運営委員の選挙の時に、意向投票を実施する。
- 臨時会費の徴収に関して、現在の会則 付則第2条の変更はしない。
- 臨時会費の上限は2000円まで。

また、RSAI会費は2018年度から、一般・学生ともに10€になるため、為替レート（1€=132円程度）により、2018年度は一般・学生とも1300円を徴収することが通知された。

(5) 会則の改正について

会則第4条1項の文言の修正および選挙内規I. 運営委員の定員数および選挙方法 第2条の改定が提案され、承認された。

(6) 2017年度坂下賞（前掲）

2017年度坂下賞は、慶應義塾大学 経済学部 直井道生氏に授与された。

(7) 2017年度応用地域学会論文賞（前掲）

2017年度応用地域学会論文賞は、栗野盛光氏（筑波大学）、高原 勇氏（筑波大学）の共著論文「IoT 車両情報の速度に関するモニタリング選択問題」応用地域学研究 第20号（2016）pp. 25-35に授与された。

(8) 2018年度研究発表大会の開催について（前掲）

(9) アジア地域科学セミナーの開催について（前掲）

(10) ジャーナルの編集・出版状況及び今後の方針

①応用地域学研究

大澤義明 編集長より、No. 21の編集状況や採択率について報告された。また応用地域学研究は若い研究者の発表の場としても広く活用してもらいたので、会員に向け、積極的な投稿と建設的な査読についてのお願いがあった。なお、2017年11月25日付で、応用地域学研究会の編集長は、大澤義明教授から、堤盛人教授（筑波大学 社会工学系）に交代することが報告された。

②RURDS

宇野公子 編集長より、以下の報告がされた。

- Vol. 29 No. 1, 2, 3の刊行報告と現在、2019年のMarch issueを準備中であること、採択率等について報告された。

(11) その他

大澤副会長より、2018年2月～3月にARSC会則第8条および選挙内規にしたがって、2018年4月1日から2020年3月31日までの運営委員選挙を実施することが周知された。

11. 事務局だより



第

31回ARSC研究発表大会は、晩秋の東京大学本郷キャンパスで盛大に開催されました。大会委員長の田淵隆俊先生をはじめとし、東京大学の小川光先生、佐藤泰裕先生、高橋孝明先生、中川万理子先生、大会運営委員の先生方のご尽力により、素晴らしい大会となりました。また、プログラム委員長を務められた曾道智先生（東北大学）とプログラム委員の先生方のご尽力に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。

運

営委員の選挙です。2018年4月からの2年間、ARSCの運営を具体的に議論し、方向づけていただく運営委員を選出する大事な選挙です。投票は、別途ご案内のとおり、事務局から送付される選挙はがきに、運営委員にふさわしいと思われる会員3名を連記し、投函・郵送することによって行われます。**投票締め切りは、3月15日(木) 当日消印有効**です。何かとご多忙の折かと思いますが、お忘れなきようお願い申し上げます。

総

会では、運営委員会選挙に間に合えば、RURDSの今後に関する会員の意向投票を行う方向が決まっていたましたが、様々な可能性の検討(交渉)に時間が掛かっています。そのため代替案がまとまった段階で、改めて意向を伺うこととし、今回は見送らせていただきます。

会

員登録情報の変更をお願いいたします。新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、ARSCホームページにある「会員ページ」<<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>>にログインし、変更登録をお願い申し上げます。ログインID、パスワードをお忘れの方は、事務局<clerk@arsc.org>にお問い合わせください。住所・メールアドレス等が変更登録されていないと、ジャーナルや、ニュースレター等が不達になるケースが多々生じておりますので、重ね重ねですが、速やかな変更登録をお願いいたします。

地

域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。入会申込は、web上で行えます。ARSCのホームページ(<http://www.arsc.org>)より、「新規入会」のページにアクセス、又は、直接(<https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/arsc>)にアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

編集 後記

みなさんは平昌オリンピック、ご覧になりましたでしょうか？ 私は、毎日テレビの前にくぎ付けで観戦&応援の日々でした。お隣の国で時差の影響もなく、歴史的な瞬間を（テレビですが）何度も目撃し、感動の涙を流しては、にわかファンとなり、選手たちのそれまでの道のりや周囲の支えなどにフォーカスしたニュース記事を詳しく読んで、にわか知識で講釈を垂れる。オリンピックを思う存分楽しんだ2週間でした。

2年後はいよいよ東京ですね。応用地域学会員の中には何らかの形で東京オリンピックの開催に関わりを持たれている方もいらっしゃるかもしれませんね。課題も山積みと言われていますが、平昌の興奮冷めやらぬ、いちオリンピックファンとしては、東京で感動の一瞬に立ち会えることを心待ちにしています。その前にまずは平昌パラリンピックです。
(ST)

ARSC NEWS No.96 (2018年2月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 安藤 朝夫

ARSC NEWS 担当: 高塚 創 (渉外担当幹事) / 田宮 すみ恵 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町126 NITTOビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: clerk@arsc.org / 学会HP: <http://www.arsc.org/jp/>

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)決算

収入の部	2015決算		2016予算		2016決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	4,482,568		3,878,381		3,878,381	
2.個人会費収入	4,414,804		5,275,000	700.00	4,243,901	
3.RSAI会費	138,000		188,000		156,000	
4.賛助会費収入	300,000		600,000		400,000	
5.補助金等	0				0	
6.利子収入	210		0		6	
7.雑誌販売(Back Number)	31,475		30,000		24,350	
8.その他	0		0			
(RURDS編集補助)	0		0			
(同上 前年度)	0		0			
収入合計	9,367,057	0	9,971,381	700	8,702,638	
(繰越金を除く収入合計)	4,884,489	0	6,093,000	55,400	4,824,257	
			6,148,400			

支出の部	2015年度決算		2016予算		2016決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS刊行・購読費	3,400,061		3,731,400		3,412,438	
(購読費)	3,314,561		3,181,400		3,396,174	
(編集経費等)	85,500		550,000		16,264	
2.年報刊行費	839,586		850,000		1,263,220	
3.大会開催補助	21,425		340,000		25,692	
(年次大会)	21,425		340,000		25,692	
(アジア地域科学セミナー)	0		0		0	
4. RSAIへの送金	228,971		188,000		197,441	
5.坂下賞	121,600		122,000		122,140	
6.論文賞	18,576		20,000		33,372	
7.ニューズレター等印刷費	0		10,000		0	
8.一般事務費	248,412		300,000		326,077	
(郵送費)	105,700		120,000		112,848	
(消耗品等)	16,182		15,000		28,823	
(会議費・交通費等)	119,434		150,000		175,074	
(銀行手数料)	7,096		15,000		9,332	
9.事務局費	610,045		565,000		735,261	
(事務管理・事務員費)	426,050		380,000		550,000	
(会員管理システム費)	183,995		185,000		185,261	
10.予備費			22,000		0	
支出合計	5,488,676	0	6,148,400	0.00	6,115,641	
繰越金	3,878,381	0	3,822,981	700.00	2,586,997	
ドル貨円換算(手数料を除く)			55,400			
繰越金合計	3,878,381	0	3,878,381	700.00	2,586,997	
			-604,187		-1,291,384	

注1:2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

注2:2016年度決算より、海外会員ドル貨会費は、円貨に換算(換金手数料差引)し、個人会費に含める。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2017年 9月13日

監査委員

小川 光



2017年 9月20日

監査委員

相浦 洋光

